

物流サービス
・ 運 送 業

本社札幌支店



物流センター白石



物流センター千歳



静内営業所



苫小牧支店



物流センター恵庭

自社開発のシステムで複数の物流センターをエリアごとに管理、全体最適化を実現！！

株式会社シズナイロゴス

- 札幌市白石区流通センター7丁目8番21号
- 代 表 者：代表取締役社長 伊藤 功一郎
- 創 業：昭和27年2月
- 従業員数：244名（平成30年4月時点）
- 事業内容：サードパーティロジスティクス事業、
共同配送・運送、物流センター運営、
物流コンサルティング等
- U R L：<http://www.shizunai.co.jp/>



昭和27年に北海道静内町で創業した(株)シズナイロゴスは、当初は路線業が主力事業であったが、近年は、食品のサードパーティロジスティクス（3 P L）事業を中心に事業を展開している。

①北海道No.1の3 P L事業者を目指す（業務拡大）、②物

流業からサービス業への変化を目指す（感謝の気持ちを忘れずにお客様目線の品質向上を提案）、③スピード感を持ってチャレンジを続ける（自ら変化し続ける）という3つの目標のもとで、北海道内で経営基盤を築きながら、海外進出も視野に入れてチャレンジを続けている。

ビジネス上の「課題」

- ・ドライバー不足
- ・長時間労働
- ・経験の伝承（教育／定着）

マニュアルの整備、業務支援システムの導入！！

働き方改革を進めて人手不足を解消する！！

ドライバー不足や長時間労働などの課題が深刻化する物流業界では、即戦力となる中途採用を中心にドライバーの獲得競争が行われている。

そうした中、同社は数年前より高卒・大卒の新卒採用を開始、高卒にはドライバー職候補、大卒には幹部候補としての社員教育充実に力を入れる。

同社が目指したのは、新人でもベテラン社員並みに作業ができる体制整備と、倉庫業務とドライバー業務を兼務する「多能工」の育成による働き方改革であった。

新入社員向けのマニュアル整備を進める一方、慢性的なドライバー不足・長時間労働を解消し業務効率を改善するため、各種業務支援システムの開発に踏み切った。

<採用したITツール>

1. 商品配送と検品作業の効率化

スマホアプリ（SOCAS）の採用

大手ホームセンターへの商品配送・検品業務にスマホアプリを利用したクラウド型サービス「SOCAS※」を導入、カメラ機能を使い商品のバーコードを読み取り検品作業を行うことで、ホームセンター側での検品作業時間の削減、入庫ミスの減少、作業時間の削減、顧客満足度（CS）向上に取り組んだ。

パッケージソフトではなくスマホアプリを採用したのは、パッケージソフトで使用するハンディスキャナーが高額かつ自社用のカスタマイズに時間がかかるのに対し、スマホアプリであれば、自社に必要な機能のみ安価に導入し、必要に応じ段階的に機能を追加できるため。

※SOCAS：在庫管理を行うクラウド連動型サービス

2. 配送業務の生産性向上策

配送支援システムの導入（自社開発）

スマホやGPSを活用して配送業務の効率化を推進するため、配送支援システムの自社開発にも取り組んだ。配送先の情報や効率的な配送ルートを送りドライバーに伝え、アラームにより誤配送を防ぐ機能も盛り込むなど、新人でもベテランに近い配送品質を実現できることを目指した。

以前は、納品時の注意点（例：「正面から見て右側のシャッターに納品」、「接車スペースにはみ出した屋根があるので注意」など）を口頭や書面で伝えていたが、システムの導入により、情報伝達ミスの削減、スムーズな引き継ぎが可能となった。

3. 物流センターの生産性向上策

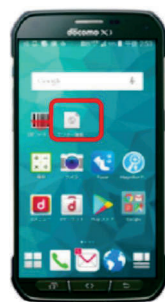
倉庫支援システムの導入（自社開発）

物流センターにおける業務改善のため倉庫支援システムを自社開発し、時間のムダ発見などに取り組んだ。

倉庫スタッフがスマホで、拠点（センター名）→荷主→業務→業務開始→数量・人数を入力し登録することで、出勤してから帰宅するまで、“いま何の作業をしているのか”“何の作業に何時間掛かったのか”が分かるようになっている。

各センター長は、実績データをガントチャートに移し、チャート上で無駄な時間がないかチェックするほか、データを精査し、社員のスキル等を考慮し人の組み換えにより減員を図るなど、効率的なシフト組みに役立っている。

倉庫支援システム（基本的な流れ）



① センター業務支援
ショートカットを指で
軽くたたく（タップ）

② 拠点をタップ

③ 荷主をタップ

その後、④ 業務をタップ、⑤ 業務開始をタップ、⑥ 数量/人数を入力、
⑦ 登録をタッチして入力内容を登録する。

ビジネス上の「効果」

- ・無駄な時間の発見～削減へ
- ・最適な人員配置の実現
- ・顧客満足度の向上

センターごとの部分最適ではなく、
エリア全体の最適化を実現！！

物流センターのムダな時間を発見～削除、最適な人員配置を実現！！

スマホアプリの採用により、スマホ1台でバーコードの読み取りやデータ入力作業が可能となり、作業効率が改善された。また、スマホのグループ内通話機能の採用で、スマホが内線感覚で使え無料になり、通信費も削減できた。同社は、今後、販売店向けに荷受・検品・販売支援・店頭在庫管理・棚卸などを“トータル物流”として展開させる予定である。

倉庫支援システムでは、現在はシフト勤務表をExcelで作成し、各センター長が経験に基づき、無駄な時間が発生しないよう工夫し、15日前に半月分のシフト予定表を作成している。また、平成30年度からセンター長の上にエリア長を

置き、繁忙期に忙しいセンターへ他のセンターから支援者を出すことで最適な人員配置を実現し、無駄な外注費を抑えている。今後、AIを活用した“最適なシフト表”の自動作成を実現する予定である。

また、配車支援システムでは、情報伝達漏れや誤配送がなくなったことにより、業務効率化と同時に顧客満足度の向上も図られている。配車支援システムも目下AIによる改良が試みられており、今後も運用しながら100%を目指す考えである。

導入企業の声

必要な機能をすぐに導入したいので、必要最低限の機能だけを開発・導入し、その後に使いやすいように改善を加えています。

また、配送支援システムは、現場から要望を出させるように仕掛けましたが、要望が出てこなかったのでトップダウンで進めました。この配送支援システムを利用し、ベテランには勝てないかもしれませんが、新人のレベルが高くなれば良いと考えています。

当社は人材不足対策として、恵庭物流センターの中で日本語学校を運営しています。まだノウハウは少ないのですが、少しずつ軌道に乗り、今は外国人を活用した他社への派遣ビジネスにも取り組んでいます。外国人が派遣されてきた場合も、スマホを使ったシステムがあれば、すぐに業務に慣れると思います。



伊藤社長

ITコーディネータから一言

同社は、伊藤社長のアイデアによるリーダーシップの下、複数の業務でIT利活用に取り組んでいます。また、ITを業務改善のツールと考え、早く効果を得るため必要最低限の機能から導入（＝スモールスタート）し、その後改善を加えるという手法で継続的な業務改善を実現しています。最近では「未来が予測できない」「IT技術の進歩・変化が速くて何を導入すれば良いか分からない」という声が聞かれますが、同社のスモールスタートの考え方は参考になると思います。